

02 クローズアップ

02 異常気象の新時代 備えはできていますか

08 命に関わる危険な暑さに警戒

09 「町子ども読書活動推進計画」策定

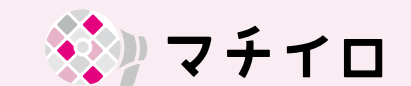
10 まちのわだい

12 まちの情報ホットライン

12 生涯学習ひろば 14 今月の健康

16 8月のお知らせ 26 暮らしの情報

28 笑顔の輪 わが家のアイドル



スマホアプリ「マチイロ」でカラー写真の広報さようをご覧ください



中安・徳久地域づくり協議会は、第5回となる「地域交流七夕会」を7月14日に開催しました。地域の幼児から高齢者までが中安グラウンドに集合。快晴の中、そうめんや焼きあゆを食べ、交流を楽しみました。（関連記事 11 ページ）

●「広報さよう」は 佐用町公式ホームページでもご覧になれます。
アドレス <http://www.town.sayo.lg.jp>

Monthly Pick up
今月の注目

1

災害時の「自助」がますます重要に

異常気象の新時代 備えはできていますか

7月初旬の「平成30年7月豪雨」では、佐用町に初めての特別警報が発表され、広域で甚大な被害が発生しました。今後も、台風などによる出水が見込まれます。また、全国各地で地震も頻発しています。今号では、自分の命は自分で守る「自助」について考えます。



7月豪雨によって崩落した大撫山展望テラス

異常気象の新時代

佐用町を襲った災害のうち、平成21年8月に起こった「平成21年台風第9号災害」（以下、台風第9号災害）と、7月に起こった「平成30年7月豪雨」（以下、7月豪雨）の雨の降り方を比較してみました。

24時間雨量はいずれも、大きな災害発生目安となる200ミリを超えています。

初めての特別警報が発表され、避難勧告を発令しました。佐用町では人的被害は報告されていませんが、道路・河川、農地などへの被害が多く発生しています。

初の特別警報発令

6月28日から7月8日にかけて、豪雨が西日本を襲いました。7月初旬には兵庫県を含む最大11府県にわたる広範囲で大雨の特別警報が発表されました。佐用町にも初

て、強い雨が降りやすくなっていることが原因のひとつと考えられています。

経験したことのない想定外の災害が起こる可能性があります。自分の命を守るのは、自分自身です。物資と、気持ちの「備え」は十分か、確認してみましよう。

今後台風などによる出水が見込まれるほか、各地で地震も頻発しています。異常気象の新時代が到来したともいわれ

雨量の比較 ※（ ）内は観測地点

雨量	平成 21 年 台風第 9 号災害 (平成 21 年 8 月)	平成 30 年 7 月豪雨 (平成 30 年 7 月)
1 時間雨量 (最大)	89ミリ (佐用) [8/9 20:17-21:17]	42ミリ (上三河) [7/6 22:20-23:20]
24 時間雨量 (最大)	326.5ミリ (佐用)	248ミリ (上石井)
累加雨量	349.5ミリ (佐用) 約 30 時間	408ミリ (上石井) 約 60 時間

命を守る「3つの自助」

防災に関するさまざまな研究・指導にあたる、兵庫県立大学 環境人間学部 木村玲欧准教授に、防災への備えについて聴きました。

① ハザードマップに書き込もう！

各戸に平成29年度に配られている「佐用町ハザードマップ」、自宅の周辺だけを見て、終わっていませんか？



自宅にいるときにだけ災害が起るわけではありません。よく行くスーパーや病院、学校、職場などや、その通り道も確認しておくことが大切です。道路が警戒区域になっているところもあるのです、ペンでなぞって確認するとわかりやすいですね。

水害の場合は「洪水」「浸水」「土砂災害」の3つの被害が考えられます。中には3つとも危険性が高い地域もあります。ハザードマップで、通り道をペンでなぞってみましょう。

② 「警報」が出たら非常スイッチに切り替え！

今回「特別警報」が出されました。皆さん、「警報」の発表だけなら、「特別警報」が出てないから何となく大丈夫と思っ

ていませんか？ 「警報」が出たからといって、ただちに命が危機にさらされたり、物が壊れたりするわけ

「警報」です。いつでも避難（垂直避難・水平避難）できるよう、例えばテレビのデータ放送などをつけばなしにしておく、手回し式懐中電灯や非常持ち出し袋をリビングに出しておくなどの心がけをするだけでも十分です。もちろん災害の危険がある

と判断した時には、自分から率先して避難や対応行動を取ることも重要です。何も被害がなければ、「準備し損」ではなく「良い訓練ができた」と、自分で、家族で、地域で評価するといいですね。

③ 「わがこと意識」を持つ！

災害は、直接的な経験の回数が少ないものです。そうすると、他人事のように感じてしまい、自分のこと、つまり「わがこと」と感じにくくなります。さらに、異常事態が起こっているとき、人は無意識に「大変な

ことが起こっているけど、自分はたぶん大丈夫だろう」と思い込もうとします。

7月豪雨で被災した岡山県のある地域では「ご近所さんが逃げろと言ったから」「向かいの一人暮らしのおばあちゃんを連れていかないといけない」とい、一緒に避難した」という声がありました。起こっていることを「わがこと」としてとらえる意識を持った人が、自ら情報を集め、避難して助かった事例です。この意識を高めるには、地域や学校などで日ごろから教育・訓練をくり返すこと。これしかありません。

日本は「異常気象の新時代」に入りました。毎年のようにどこかで経験したことのない大雨などの自然災害が起き、そのたびに命をおびやかしています。9年前に被災した佐用町から再び被害者を出さないためにも、皆さん一人ひとりが「わがこと意識」を高めましょう。




兵庫県立大学 環境人間学部 准教授 木村玲欧さん

〔プロフィール〕

専門分野：防災心理学、防災教育学
内閣府・防災教育チャレンジプラン実行委員会委員、関西広域連合・関西広域防災計画策定委員会委員、兵庫県・ひょうご安全の日推進県民会議企画委員会委員などを務める
平成27年度から、町内の小学校で防災教育にあたる



リモコンの  ボタンを押すと見られます

Pick up 緊急情報に備えて「Jアラート」試験放送を実施

緊急地震速報などの緊急情報を国から受信する「全国瞬時警報システム（Jアラート）」の試験放送を実施します。

●日時 8月29日⑩ 午前11時ごろ

●実施方法 戸別受信機、屋外スピーカー、佐用チャンネルでの試験放送、「さよう安全安心ネット」の登録者へのメール配信

●実施方法 チャイムの後に「これはJアラートのテストです」という放送が流れます。

●企画防災課 防災対策室

☎82-0664



「自助」と「共助」で命を守る

早い避難につなげられるよう、気象庁や兵庫県などから、災害発生の際に適切な情報が発信されています。情報を正しく受け取ることで、安全に避難し、自分や周りの人の命を守ることにつながります。

また、町内各地で、「自助」や「共助」の力を高める訓練が行われています。

大雨で発表されるさまざまな警報、情報の例

特別警報

警報の発表基準をはるかに超える大雨などが予想され、これまで経験したことのないような、重大な危険が差し迫っているときに発表されます。

Point!

発表時には、**災害がすでに起こっていてもおかしくない状態**です。

警報

重大な災害が起こるおそれがあるときに発表されます。

Point!

特別警報よりも「安全」ということではありません。
平常時に比べて、災害の危険性が格段に上がっている状態です。

・土砂災害警戒情報

(命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況)

・記録的短時間大雨情報

(現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量)

・水防警報

(河川が基準の水位に達したとき、消防団などの出動の指針とするために発令) など

自助

地域の防災力は一人ひとりから



「火事だー!」と叫び、水消火器を噴射する生徒

上月地域づくり協議会は、6月27日に上月小学校で「地域防災力強化訓練」を実施。同会員、同校全児童と上月中学校1年生の生徒計約220人が参加し、豪雨や煙幕などを体験しました。

このうち豪雨体験では、激しい降雨の中、傘を差して長靴を履き、深さ約20センチの水路を歩きました。上月小学校3年生の藤本柚さんは「雨が強く、傘が重かった。長靴に水が入って歩きにくかった」と振り返っていました。

指導にあたった佐用消防署員は「いつ何が起きるかわからない災害時の行動は、訓練をくり返して身につけておくしかない。一人ひとりが防災力を身につけることで、災害に強い地域になってほしい」と講評していました。

共助

地域ぐるみで災害に備える



避難所用の仕切りとベッドを体験する参加者

社会福祉法人平成福祉会は、6月22日に、林崎自治会と合同で防災訓練を実施。長雨の後に地震が発生し、同会の「障害者支援施設シャイン」に、同自治会の高齢住民が避難を求めたという設定で行われました。

自主避難の受け入れ要請に、職員が施設内に段ボール製の仕切りとベッド、更衣室を設置して対応。初めての試みに、改善点などについて活発な議論が交わされました。

参加した林崎自治会長の篠康記さんは「施設に受け入れてもらえることは画期的で、ありがたい。集落に住む者もお客さんにならず、手を取り合って安心安全をつくるのが大切」と、地域ぐるみの防災への意識を強くしていました。

Monthly Pick up
今月の注目

2

7月9日の梅雨明け以降、厳しい暑さが続いています。最高気温が35度以上の猛暑日が続き、佐用町でも過去最高の40度越えを記録しました。

猛暑も異常気象のひとつと考えられており、これまでと同じ暑さ対策では命に関わる危険性があります。従来に増しての対策をとり、命を守りましょう。

健康福祉課 健康福祉推進室

☎ 82・0661

西はりま消防組合

佐用消防署

☎ 82・3872

「猛暑」に最大の対策を
連日、最高気温が35度を超える猛暑日が続く、全国で熱中症の事例が多発しています。佐用町でも40度を超える日があり、豪雨への対策と同様、これまでとは違った対策が必要です。

命に関わる危険な暑さに警戒

熱中症の症状と対策

分類	症状	対策
I度 (軽度)	<input type="checkbox"/> めまい、立ちくらみ <input type="checkbox"/> こむら返り（筋肉痛） <input type="checkbox"/> だるさ <input type="checkbox"/> 手足のしびれ <input type="checkbox"/> 気分不快感 意識障害なし、発汗あり、平熱	体を冷やして、水分・塩分を補給する ・涼しい場所に移動し、あおむけに寝かせる ・首、わき、足の付け根を氷などで冷やす ・水分摂取（経口補水液など）
II度 (中等度)	<input type="checkbox"/> 頭痛 <input type="checkbox"/> 吐き気、おう吐 <input type="checkbox"/> だるさ <input type="checkbox"/> 疲れ（倦怠感） 意識障害なし、発汗あり 体温は平熱～40度未満	水分を自力で摂取できない場合や、症状が改善しない場合には、病院を受診
III度 (重度)	IIに加え、 <input type="checkbox"/> 呼びかけへの反応がおかしい <input type="checkbox"/> けいれん <input type="checkbox"/> 異常な高体温 <input type="checkbox"/> 汗が出なくなる（発汗停止） <input type="checkbox"/> 肝臓、じん臓の障害 （病院での血液検査で診断）	ただちに119番で救急車を呼ぶ

熱中症予防のポイント

- 昼夜問わず、エアコンや扇風機を上手に使う！
- 水分と塩分を補給！（のどが渇く前に、こまめに一杯。出かける前、寝る前のコップ一杯。スポーツドリンクや塩あめなどで塩分も。アルコールは逆効果）
- 休息をしっかりと！（屋外での活動は、こまめに涼しいところで休憩。夜はしっかり寝て、寝不足を防ぐ）
- 食事をしっかりとろう！（朝食のみそ汁で水分と塩分を補給）

Monthly Pick up
今月の注目

3

人生を豊かに生きる力を身につけるために

「町子ども読書活動推進計画」策定

町は、町の子どもが、あらゆる機会と場所で読書ができるよう「佐用町子ども読書活動推進計画」を策定しました。

町は、18歳未満のすべての子どもに、いつでも読書ができるよう、家庭や学校、地域、さまざまな行政機関などが連携して環境を整え、支援する計画を策定しました。

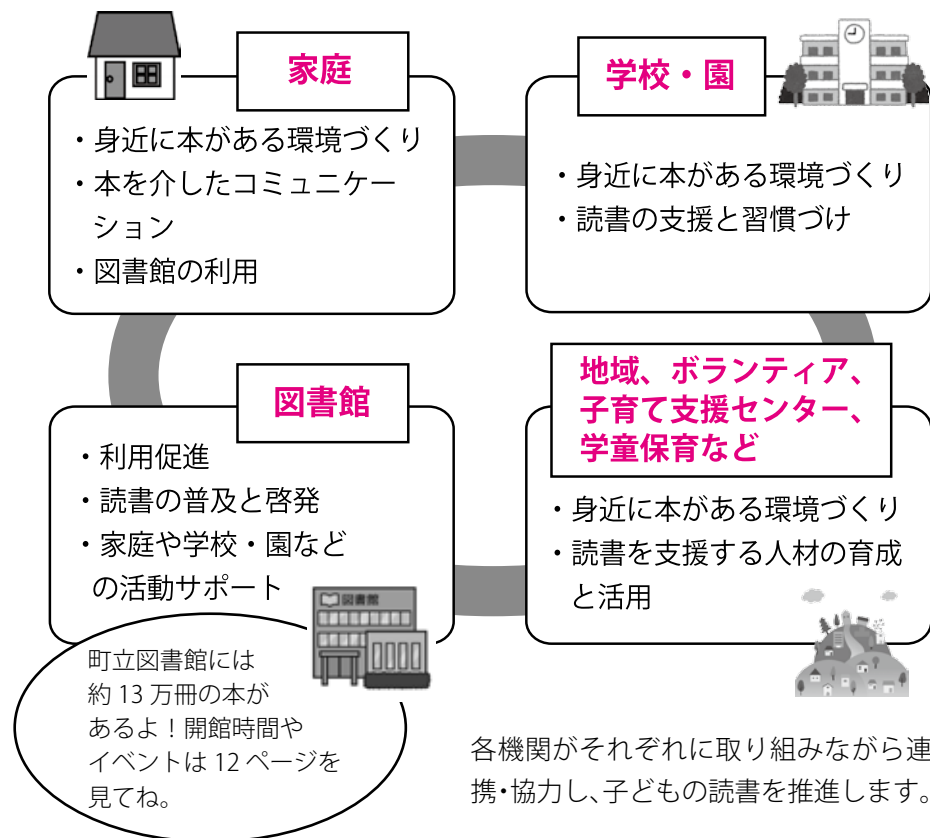
この計画は「子どもの読書活動推進に関する法律」をもとに策定し、平成30年度から5年間の第1次推進期間としています。

これに基づき、子どもが人生を豊かに生きる力を身につけられるよう、読書活動をサポートします。

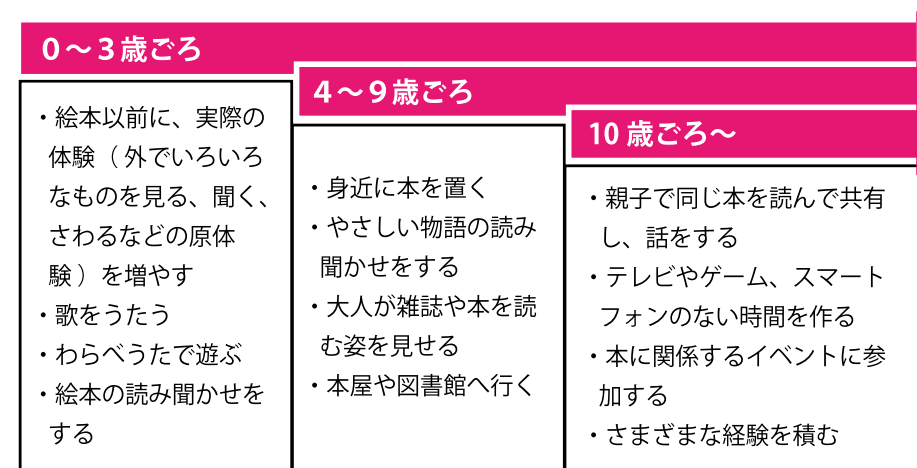
町立図書館

☎ 82・0874

子ども読書活動推進ネットワーク



子どもの年齢別 読書活動のおすすめサポート





そうめん まだかな

7月14日に中安グラウンドで地域交流七夕会が
開かれました。(関連記事2、11ページ)